

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 新ドライブツーリズム推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部観光国際局観光誘客推進課海外誘客係 電話番号：058-272-1111(内 2356)

E-mail：c11336@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 15,350 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	15,350	0	0	0	0	0	0	0	15,350
決定額	15,350	15,350	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

新型コロナウイルス感染症収束後は、「安全・安心」、「密回避」に対する意識の向上により、海外旅行に関してもこれまで以上に自然や屋外でのアクティビティ、少人数で体験するコンテンツなどが好まれ、また、移動スタイルについても、車(レンタカー)による旅行が増えることが予想される。

このことは、田舎ならではの自然やそれらを活かしたアクティビティ、伝統文化・匠の技など旅行者自身が体験できるコンテンツが豊富であるという従来から岐阜県が備える「強み」と、脆弱な公共交通機関網を補うよう高速道路を含めた道路網が発達しているという田舎だからこそ新たな「強み」が、アフターコロナに到来する世界の旅行トレンドに合致していることを表している。

これらの「強み」を「ドライブツーリズム」として全面に打ち出してPRすることで、アフターコロナにおいて世界から選ばれる旅先をめざす。

(2) 事業内容

- ドライブ旅行PRキャンペーン事業
 - ・ Webサイトを活用したオンラインPR事業
 - ・ SNS等を活用したオンラインキャンペーン事業
- ドライブ旅行プロモーション事業
 - ・ 旅行会社等と連携した販売促進事業

(3) 県負担・補助率の考え方

外国人観光客の誘致による観光産業の振興、県経済の活性化は県が率先して実施すべきものであり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	95	プロポーザル評価委員への報酬
旅費	144	職員出張旅費、プロポーザル評価委員費用弁償
需用費	31	消耗品等
役務費	80	通信、輸送費等
委託料	15,000	情報発信、旅行商品販売促進費等
合計	15,350	

決定額の考え方

財源については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当します

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
3 地域にあふれる魅力と活力づくり
(2) 次世代を見据えた産業の振興
④観光産業の基幹産業化
- 岐阜県成長・雇用戦略2017
2 各重要プロジェクト
[6]観光産業の基幹産業化プロジェクト
(3)「世界に誇る遺産」等を核とした誘客



(2) 国・他県の状況

- 国、他都道府県においても同様の事業を実施しており、国、県が事業予算を負担

(3) 後年度の財政負担

- 次年度以降も継続して実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

- 外国人観光客の誘致については、創生総合戦略でも位置づけた県の役割であり、事業費を負担する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

新型コロナウイルス感染症からの早期回復市場をターゲットに、コロナ収束後に到来する「新しい旅スタイル」を見据えながら、本県の魅力を広く世界に打ち出した誘客活動を行うことで、コロナ収束後における本県を訪問する外国人観光客の回復につなげる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
① 外国人延べ宿泊者数		29万人	50万人	70万人	180万人	16.1%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和 3 年	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 4 年	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価)	<p>3</p> <p>アフターコロナにおいては、世界中で旅行者の激しい争奪戦が予想され、本県が旅先として選ばれるためには、新しい旅スタイルに対応した戦略的な誘客活動が不可欠である。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価)	

(今後の課題)

各国と日本との間の出入国制限解除に向けた動きを適時適確に見極めながら事業を行う必要がある。

(次年度の方向性)

コロナ収束後のインバウンド回復については、県内宿泊施設をはじめ観光事業者からの要望も多く、県が海外誘客に積極的に取り組むことが重要であるので、コロナ前と同様に県内事業者との連携・協力により、継続して事業を実施する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	